

# 1. 評価結果概要表

平成 20年 2月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	長野県 第2072400621号		
法人名	サンビジョン		
事業所名	グループホームグレイスフル箕輪		
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪6065 (電話) 0265-71-3721		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年1月18日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】( 19年 12月 20日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤10人	非常勤3人 常勤換算12.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~45,000 円	その他の経費(月額)	17,340 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

### (4) 利用者の概要 ( 12月 20日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	10名	要介護2	5名			
要介護3	3名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	82.1 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島病院・伊那中央病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム・グレイスフル箕輪は、伊那谷の北部に位置する田園都市型の箕輪町の中でも、とりわけ見晴らしの良い丘陵地に位置している。ホームから眺めることができる秀麗雄大なその景色は、ホーム利用者を含めたすべての生活者の気持ちを和やかなものにする一つの芸術作品ともいえ、その眺望は四季折々の雰囲気を楽しませてくれるものでもある。さらに豊かな自然だけでなく温かい地域住民との交流も密に行われており、この地域に根付いた生活の場となっている。その基礎をつくっているのは、やはりホームに関わっている人々の質である。このホームには地元出身の職員が多く、また、近隣のかかりつけ医との良好な関係は、利用者、家族、職員すべての安心の源となっている。利用者は、豊かな自然と人に恵まれた穏やかな環境で快適かつ安心な生活を送ることができる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査においては、理念掲示の場所、栄養管理、地域との交流などについて要改善の指摘がされていた。今回調査においては、これらの3つの事柄については適切に改善されていたものと判断できる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価結果を活用して、ホームのサービスの質をよりよいものにしていこうとする姿勢が、職員の対応からみてとることができる。評価への取り組み姿勢は良好である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、行事等に関する報告が適切にされている。利用者、家族、地域から出されたホームに関する意見は、すぐに職員に伝達するようにしている。また、要望があった場合は速やかに行動に移すよう努力している。市町村に対しては、ホームで生じた事故に関する報告や入退院に関する情報提供が適時に行われるなど、サービスの質確保のために必要な市町村との連携は、適切に行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に利用者の状況を伝えたり、病気や怪我などの特変時には直ぐに連絡を行なっている。また、日々の様子については、月に1度の利用料請求時に施設新聞「ひまわり」を送付している。写真を使用したスライドの上映会を居酒屋時におこなっていくなどの計画もある。事業所内、各市町村、県の苦情相談窓口を重要事項説明書に記載している。また、苦情解決責任者、受付時間、電話番号も記載している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の行事(みわ祭り、あかさば祭り、防災訓練、災害地視察、敬老会)等に積極的に参加している。また、施設の行事においても地域の方々を招待するなど、地元の人々と交流することに努力している。職員に地元出身者が多いことが強みとなっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を掲げて運営している。また、法人の理念に基づいて事業所の事業計画も立てている。ただし、事業所独自の理念については検討中である。	○	法人の理念に基づき、事業所独自の理念もさらに明確にしていくことが望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内に法人の理念を掲示している。管理者および職員は法人の理念を正確に把握している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(みのわ祭り、あかそば祭り、防災訓練、災害地視察、敬老会)等に積極的に参加している。また、施設の行事においても地域の方々を招待するなど、地元の人々と交流することに努力している。職員に地元出身者が多いことが強みとなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価資料を作成している。また、自己評価結果及び外部評価結果に基づき、よりよいサービスが提供できるよう改善を図っている。		

グループホームグレイスフル箕輪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事等に関する報告が適切にされている。利用者、家族、地域から出されたホームに関する意見は、すぐに職員に伝達するようにしている。また、要望があった場合は速やかに行動に移すよう努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村に対して、ホームで生じた事故に関する報告や入退院に関する情報提供が適時に行われるなど、サービスの質確保のために必要な市町村との連携は、適切に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の状況を伝えたり、病気や怪我などの特変時には直ぐに連絡を行っている。また、日々の様子については、月に1度の利用料請求時に施設新聞「ひまわり」を送付している。写真を使用したスライドの上映会を居酒屋時におこなっていくなどの計画もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内、各市町村、県の苦情相談窓口を重要事項説明書に記載している。また、苦情解決責任者、受付時間、電話番号も記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な個別面接を行ない、職員の要望や健康状態について把握することで、不必要な離職が生じないように努めている。		

グループホームグレイスフル箕輪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力を自己確認していくために「スーパースターシート」と呼ばれる自己評価査定表を活用している。また、施設内や法人エリア内の勉強会に参加する機会を設けている。職員一人ひとりがそれらの活動に積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	箕輪町の実務者会議に積極的に参加することで、サービスの質の確保・向上、とりわけ地域とのつながりに関連するサービス提供に必要な情報の共有化を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者および家族のホームの生活に対する不安を軽減するために、利用開始前に施設見学の機会を設定している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と同じ視点に立ち、常に尊重した声かけができるようにセリフ集を用いて不適切な言動がなかったかどうか振り返るようにしている。また、他施設との交流研修の機会を利用して、利用者の1日体験を行い、利用者の立場に立った改善が提供できるように工夫している。		

グループホームグレイスフル箕輪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの要望を把握するために、日常の中の発言に耳を傾けるよう努めている。意思疎通が全く困難な場合には、家族も交えての話し合いにより得られた情報に基づき、本人の視点から考えるようにしている。要望等はケアプランを作成するアセスメント用紙にも反映している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所内のカンファレンスやご家族との対話などから、利用者に関する可能な限りの情報を収集している。それに基づき利用者の要望を確認あるいは推測しながら、ケアプランに反映するようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、サービス実施の有無および結果について適時にモニタリングし、その評価結果に基づき見直しが定期的に行われている。その際、著しい変化がみられた場合は、必要にあわせてケアプランを見直すようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な場合は、病院受診や個別の外出に職員が付き添うようにしている。本人の居室での宿泊についてもできるようにしている。また併設のデイサービス資源を活用することで、サービスの幅を広げている。		

グループホームグレイスフル箕輪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの嘱託医との関係は極めて良好で適切に医療サービスを受けられる環境にある。さらに利用者や家族の希望に応じて、かかりつけ医を継続している人に対しては必要時に連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合においての方針について家族、かかりつけ医と相談し、職員全員で情報を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	適切な言葉かけのためのせりふ集を作成し、それを活用することでプライバシーを侵害しないための声かけのあり方について勉強している。また、不必要な個人関連文書については必ずシュレッターを使用するなど、個人情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのニーズを把握し、その人らしい生活の支援に努めている。具体的には、利用者のその日の気分や体調に応じて食事作りや買い物など参加できるようにしている。		

グループホームグレイスフル箕輪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの利用者が役割を持ちながら食事の機会を楽しむことができるように配慮している。例えば、食事の準備から後片付けまで、利用者と職員が役割を分担して一緒に行っている。また、利用者様の食べたいものについては、メニューに取り入れたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の機会を臨機応変に提供できるように、入浴への声かけは個別に行っている。また、利用者一人ひとりの希望に応じた湯温、時間帯にて入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活すべての機会において、その人ができることを支援するように配慮している。例えば、個別に絵を描いたり、貼り絵をしたり、炊事事の支援や雪かきなど、職員も一緒に行ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中に閉じこもるのではなく自由に戸外に散歩に出かけることができるよう配慮している。実際、施設周辺を散歩している利用者もいる。その他、天気の良い日などは愛犬をつれて散歩に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は通常の家と同様に安全管理のために施錠するが、日中は鍵をかけることはしていない。		

グループホームグレイスフル箕輪

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施している。また、地域で行われている防災訓練にも積極的に参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの栄養状態が適切に確保されるように、毎食の食事量のチェックを行っている。また、一人ひとりの摂取量に合わせて食事量の調整も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者全員の共用の空間となるものについては、一人ひとりの利用者にとって居心地の良い環境となるよう工夫している。例えば、利用者自身が作成した作品を掲示したり、近隣の小中学校から訪問の際に提供されたものなどを掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時やカンファレンスの際には、家庭で使い慣れた家具や生活用品を準備してもらえようように依頼し、各利用者の生活習慣や好みに合わせた環境となるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。